

2011年6月9日

報道各位

住友金属鉱山株式会社
住友商事株式会社

米国アラスカ州ストーンボーイ探鉱プロジェクトにおける
金・銀・アンチモン鉱化帯の探鉱成果について

住友金属鉱山株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 家守伸正）と住友商事株式会社（本社：東京都中央区、取締役社長 加藤進）は、住友金属鉱山の米国子会社 SMM Exploration Corporation（以下「SMMEC」）、と住友商事の米国子会社 SC Minerals America Inc.（以下「SCMA」）を通して、共同で実施しているストーンボーイ探鉱プロジェクトにおいて探鉱中のモンテクリスト地域で、ボーリングにより金・銀・アンチモンの鉱化帯の存在を確認しました。

ストーンボーイ探鉱プロジェクト（以下「本プロジェクト」）では、米国アラスカ州フェアバンクス市の南東約 85km、ポゴ金鉱山の西約 60km 一帯で探鉱を行なっています。本プロジェクトは 1991 年より開始したもので、現在の権益比率は SMMEC 95%、SCMA 5%です。2009 年 6 月から 2010 年 6 月の間は、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）と SMMEC、SCMA の共同プロジェクトとして探鉱を実施いたしました。なお、住友金属鉱山および住友商事が権益の 100%を所有し操業を行なっているポゴ金鉱山は、本プロジェクトを遂行して行く中で 1994 年に発見されたものです。

今回、本プロジェクトで探鉱中のモンテクリスト地域ナオシ地区において、2008 年に 2 孔（371m）、2009 年に 16 孔（2,371m）、2010 年に 11 孔（2,426m）のボーリングを実施し、29 孔中 27 孔において、金・銀・アンチモンを伴う石英脈の存在を確認しました。主なボーリング結果は、別添の表のとおりです。石英脈は西に緩く傾斜し、走向方向に 1,500m 以上、傾斜方向に 500m 以上連続し、厚さ 1~5m 程度の最低 2 枚の石英脈の存在が推定されています。

今後は、鉱量を正確に把握する目的で、ナオシ地区において、石英脈の延長部や平行脈の鉱況を確認するためのボーリングやより間隔を狭くしてのボーリングを継続してまいります。また、モンテクリスト地域ではナオシ地区の他にも同様なタイプの鉱化帯の存在が推定されており、これらの鉱化帯についても新たに調査を進めていく予定です。

住友金属鉱山は、2009 年中期経営計画において資源事業をコアビジネスのひとつに位置付け、長期ビジョンとして権益シェア年間産金量 30 トンを目標に海外鉱山権益の取得を

進めているところです。本プロジェクトは、住友金属鉱山が進めている約 20 ヶ所の海外探鉱プロジェクトのひとつであり、今後とも海外での自社探鉱を積極的に進めてまいります。

(添付資料)

- ・ ナオシ地区の主要ボーリング結果
- ・ 調査地域位置図
- ・ 鉱化帯概念図

(本件に関するお問い合わせ先)

住友金属鉱山株式会社

広報 I R 部 高橋 雅史

TEL : 03-3436-7705

FAX : 03-3434-2215

住友商事株式会社

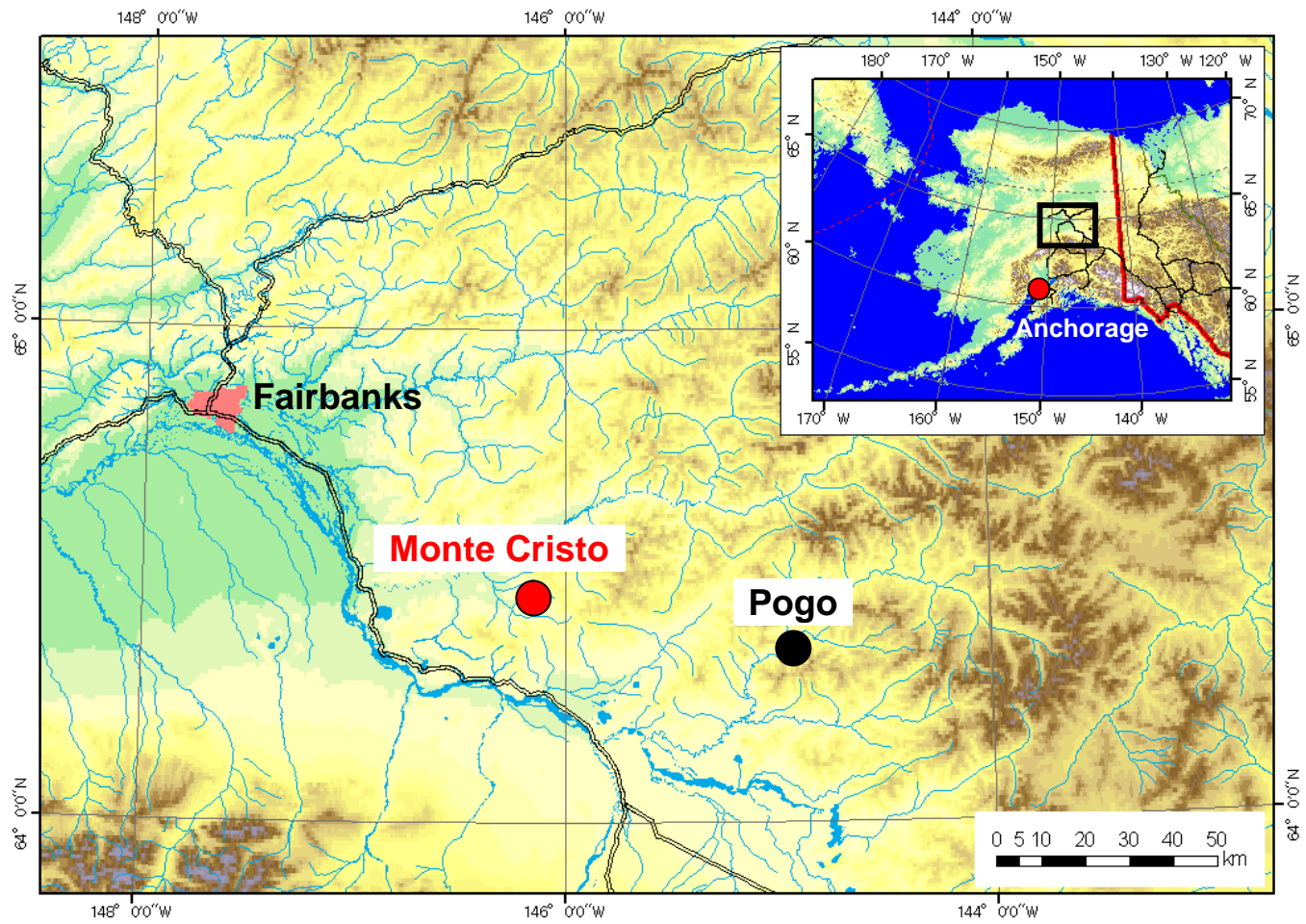
広報部 古井 孝治

TEL : 03-5166-3100

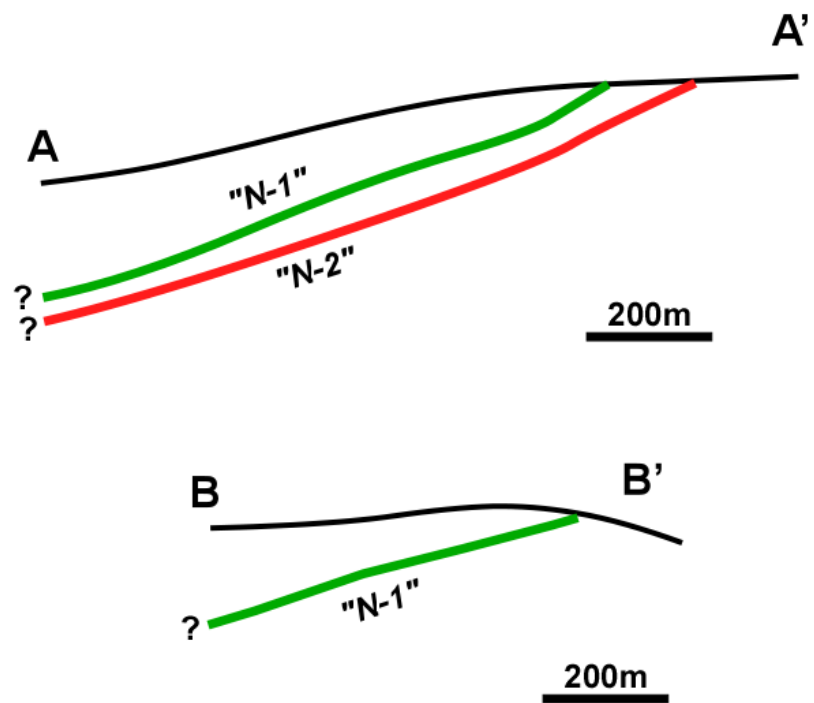
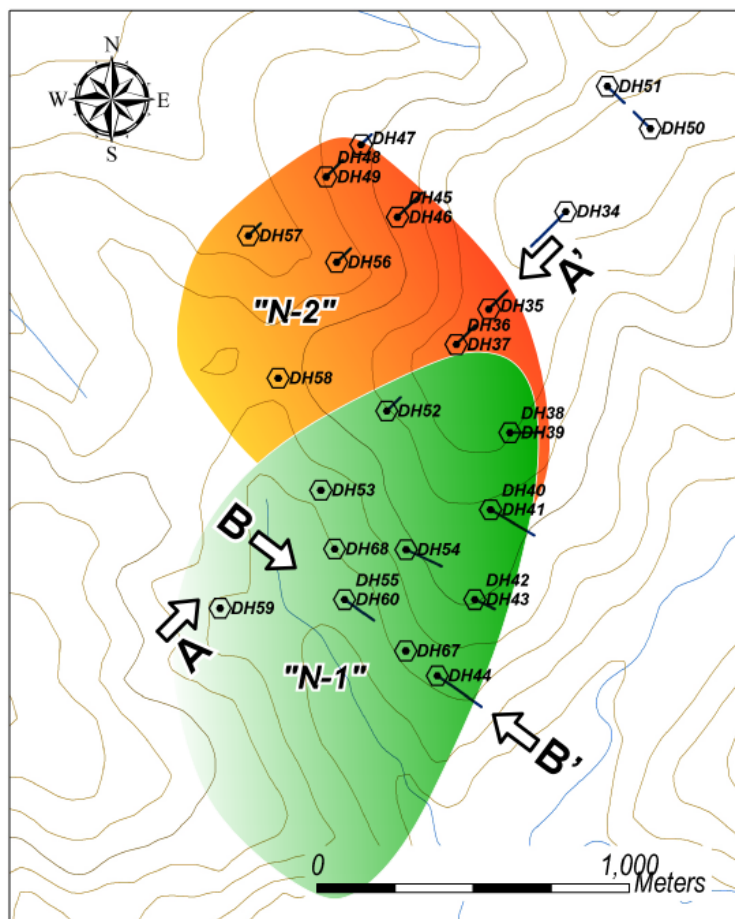
FAX : 03-5166-6203

ナオシ地区の主要ボーリング結果

試錐孔名	区間長 (m)	金 (グラム/トン)	銀 (グラム/トン)	アンチモン (%)
DH-35	7.92	7.8	19.7	0.10
DH-36	2.47	3.6	39.3	3.27
DH-43	7.35	1.1	33.8	1.19
DH-45	8.93	0.6	16.7	1.43
DH-52	1.52	3.5	21.3	3.85
DH-53	1.22	4.3	2.0	0.00
	0.91	2.3	1,065.0	7.37
DH-55	1.22	29.2	32.1	0.36
	22.83	4.2	48.0	0.17
	うち8.69	7.8	69.1	0.07
DH-56	0.79	1.2	449.0	5.62
DH-58	2.90	3.4	0.4	0.00
DH-59	0.61	2.5	76.5	1.65
	0.91	3.2	2.9	0.01
DH-60	14.69	3.6	84.4	0.58
	うち6.71	5.1	146.2	1.13
DH-67	3.05	8.5	125.5	0.28
DH-68	1.22	4.4	14.3	0.12



調査地域位置図



鉍化帶概念圖 (左：平面圖，右：断面圖)